

イスラエルの子供殺しに、ジャーナリストはなぜ驚くの？

【訳者注】ここに書かれているのは、イスラエルのパレスチナ人虐殺に関してだが、ベトナム戦争に関しても同じようなことを指摘している人がある。「ソンミ村虐殺事件」というのは、それだけを例外のように際立たせて、全体から目をそらせるための報道工作だったという。この規模の事件は、ベトナム戦争を通じていくらでもあったということである。

「イスラエルのような立派な国がそんなことをするはずがない、という善意の思い込みから読者をミスリードすることがある。ジャーナリストよ、もっと勉強せよ」とこの批評家は言っている。今の我々のメディア一般は、アメリカやイスラエルを批判するなど、畏れ多く非常識なことだと言っているように見える。“勉強”もせず、批判精神を失うことによって、気がついたときには悪の泥沼から抜け出せなくなっていた、というようなことにならないようにしたい。

By Amena Saleem

Global Research, June 15, 2015



昨年夏、フットボールをしていた4人の子供がイスラエルによって殺された後、これを嘆き悲しむ遺族たち（Ali Jadallah APA 写真）

昨年7月、イスラエルがガザの海岸で4人の子供を殺した件について、この国が自分を無罪と裁定したのは、何も驚くようなことではなかった。これは数日前に公表された軍事裁判の話である。

<https://electronicintifada.net/blogs/ali-abunimah/children-die-playing-football-taxi-grandma-israel-bombs-gaza-tenth-day>

<https://electronicintifada.net/blogs/patrick-strickland/israeli-military-exonerates-itself-slaughter-children-gaza-beach>

自分自身の犯罪に対するイスラエルの裁判が、有罪判決を下した例は知られていない。

しかし面白いのは、主流ジャーナリストのある者たちの反応である。彼らはこの事件に特別の関心をもつはずである。なぜなら彼らは、イスラエルのガザへの 51 日間攻撃のあった、ある午後に、フットボールをしていた Baker 家の 4 人の息子たちが、襲撃され殺されたのを目撃していたからである。

Peter Beaumont による ガーディアン紙 の記事と、Robert Tait による デイリー・テレグラフ の記事は、イスラエル軍によるこの襲撃の調査が、関わったすべての者を無罪とし、この事件を“悲劇的な事故”と宣言したことに、不信と怒りの感情を表している。

<http://www.theguardian.com/world/2015/jun/11/israel-clears-military-gaza-beach-children>

<http://www.telegraph.co.uk/news/worldnews/middleeast/israel/11670640/Israeli-exonerates-itself-over-killing-of-Gaza-boys-on-beach.html>

この 2 人のジャーナリストと、「チャンネル 4 ニュース」の Paul Mason の ブログ は、この攻撃の最中とその後の、彼ら自身の観察が、パレスチナの兵士を狙っていたというイスラエルの主張に、いかに矛盾するかを指摘している。

<http://blogs.channel4.com/paul-mason-blog/israeli-beach/3832>

しかし、ならず者軍隊によるあからさまな隠ぺいより、むしろ信望厚い組織による正義の不正操作という感じが、強く残る。

誤爆だった？

イスラエル軍に対するジャーナリズム一般の敬意は、テイトの論文に明らかである。彼は、この少年たちの虐殺は、「このような恐ろしい襲撃が、明らかに子供とわかる者たちに向けられたということは、イスラエル軍のやり方に、何かひどい間違いが起ったことを示すものだ」と書いている。

この言い方で彼が意味しているのは——多くの主流ジャーナリストに共通することだが——ベイカーの息子たち殺しと違って、昨年夏のガザでのイスラエルのこれ以外の軍事行動は、無差別殺戮ではなかったということである。

民家、モスク、そして近隣のすべてを倒壊させ、赤ん坊も子供も含む、あたりのすべての人々を虐殺した爆撃は、テイトの文脈によれば、意図的なテロ行為でなく、受容される戦争行為

だったことになる。

BBC は型通りに、もう一步進んでイスラエル軍に敬意を表している。木曜日の裁定に関するそのオンライン記事は、イスラエル軍の発表をそのまま引用するだけで、「ガザ海岸攻撃：イスラエルは“少年たちを誤爆”」という見出しをつけている。

<http://www.bbc.co.uk/news/world-middle-east-33106578>

この発表の結論を批判的に分析する試みはなされておらず、その点では、テイトもボーモンもメイソンも、各自のニュース機関で同じことをやっていて、パレスチナ側のコメントは載せられていない。

その代わりに BBC は、イスラエルの自己免責の説明のために、不都合なジャーナリズムの詮索が入り込めない場所を提供している。

そして、もちろん最後には、例の BBC のやり方で、イスラエルの昨年7・8月のガザ攻撃に対して、口実を与えている——「ロケット攻撃を終わらせ、[パレスチナ] 軍隊が国境にトンネルを掘って攻撃してくる脅威を除くためだった。」そこでは、パレスチナの占領、包囲、そして抵抗という現実は、全く無視されている。

ダメージ抑制工作

おそらく、多くの主流ジャーナリストが、このようにイスラエル軍に高い敬意を払っているためにこそ、イスラエル兵たちが故意に子供を狙うことに、彼らはひどいショックを受け、その司令官たちが故意の射撃を「事故」と呼んだことが、信じられなかったのであろう。

とすれば問題は、なぜ、主流ジャーナリストたちは、これほど簡単にイスラエルのプロパガンダに騙され、“世界で最も道徳的な軍隊”を自称するイスラエルの宣伝を信じているらしいのか、ということである。

彼らが無視している真実、したがって彼らの読者に伝えていない真実は、イスラエルが、パレスチナ人を意のままに殺しており、しかも罪を問われないという事実である。

<http://chat2gaza.com/2014/04/04/how-trigger-happy-israel-is-targeting-children-and-youth-in-palestine/>

その軍隊が発表するのは、西側のジャーナリストや政治家が、パレスチナ人の命が奪われていることに驚くまねな虐殺の調査だけであって、それは通常、その虐殺がカメラに撮られて

隠せない場合である。

<https://electronicintifada.net/content/will-israelis-filmed-killing-palestinian-teens-nakba-day-get-away-murder/14520>

これら同じジャーナリストたちは、イスラエルの“独立調査”の発表は、ダメージ抑制工作、つまり批判者を黙らせるための“宣伝活動”でしかないという現実、そして“独立”という言葉はこの場合、無意味だということを知らないようである。

それが無意味なわけは、イスラエルの犯罪のイスラエルの調査は、ほとんど例外なく、イスラエルの無実の裁定に終わるからである。その過程に“独立”などないのだから、そのようなものとして報道すべきではない。

現実に目覚めよ

軍隊が、ベイカーの息子たちの虐殺の罪を免責した事件は、主流メディアの報道ではそう言っているように聞こえるが、特別のケースではない。それは、この占領が終わるまで、何度でも繰り返されると思われるパターンの一例だった。

イスラエルは植民強国である。この国は、植民の目標を現実にするために、殺さねばならない誰をでも殺す（パレスチナ人、米活動家、英メディア関係者、トルコの人道主義者、国連スタッフ、等）。そして彼らは、過去数世紀において、すべての植民強国が罪を免れるためにやったと全く同じように、ウソをつき、隠ぺいし、プロパガンダを行う。

<http://jfp.com/?p=72476>

<https://electronicintifada.net/content/photostory-israeli-bulldozer-driver-murders-american-peace-activist/4449>

[https://en.wikipedia.org/wiki/James_Miller_\(filmmaker\)](https://en.wikipedia.org/wiki/James_Miller_(filmmaker))

<https://electronicintifada.net/content/israels-killing-british-citizen-iain-hook-unrwas-project-manager-jenin/4234>

主流メディアのジャーナリストは、これらの事実に目覚めなければならない。彼らは、イスラエルとその占領地を取材するとき、もっと鋭く、もっと知的に、もっと明敏にならなければならない。彼らは歴史、特にヨーロッパの植民史を読み、理解する必要がある。そしてその報道において、コンテキストを省くのではなく、取り込むようにしなければならない。

イスラエルは昨年夏、あの4人の少年を殺しただけではない。その軍用機、軍艦、戦車などが、パレスチナの89家族全員を消滅させ、504人のパレスチナの子供たちを、1日に10人

の割で殺し、総計 2,200 人以上のパレスチナ人を消滅させた。

<http://www.haaretz.com/news/diplomacy-defense/1.612255>

<http://www.telegraph.co.uk/news/worldnews/middleeast/gaza/11056976/The-children-killed-in-Gaza-during-50-days-of-conflict.html>

その政治家と軍隊は、これらの犯罪すべてのために裁かれるべきである。そして彼らは、公正に独立して——あるいは世界が許すかぎり公正に独立して——国際刑事裁判所で裁かれるべきである。これこそ主流メディアが大声で求めるべきことである。イスラエルの“独立した”裁判が、ガザでフットボールをしていた 4 人のパレスチナの少年を意図的に殺したのを、自ら無罪としたことに、礼儀正しい驚きを表明することではない。

http://www.icc-cpi.int/en_menus/icc/Pages/default.aspx